

S U P E R
FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.6

INDEX

- 2019 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 千代勝正が語るコースガイド ③
- ショートインタビュー 近藤真彦 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは —
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net

JRP
Japan race promotion inc.

INTERVIEW NO.6

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL
ドライバー

平川 亮

Ryo HIRAKAWA

「チャンピオンはニックに譲るので、僕はこれから2勝、3勝と、もっと勝ちたい」

8月にツインリンクもてぎで行われた全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦を制した平川亮は、優勝記者会見でそう語った。この大会、平川は予選でフロントロウを獲得。そこからスタートし、レース中盤にはトップを走っていたアレックス・パロウをオーバーテイクし、そのままハイペースで飛ばし続けた。左の拳をギュッと握りしめながら受けた初のトップチェッカー。君が代を聞く平川には、込み上げるものがあつたに違いない。昨シーズン、ITOCHU ENEX TEAM IMPULから国内トップフォーミュラに復帰した平川は、初ポールポジション獲得や初表彰台獲得など勢いを見せたが、今季は開幕から4戦連続ノーポイント。その悪い流れを断ち切るような会心の勝利だった。これまで「国内トップフォーミュラでも勝てるはず」と自分を信じてきたが、それがついに現実のものとなったのだ。

広島県呉市で3人兄弟の真ん中に生まれ、1つ違いの兄、3つ違いの妹がいる平川は、やんちゃな少年として育った。現在は淡々としたタイプに見えるが、昔はいつも外で元気いっぱい遊ぶ子供だったという。広島という場所柄、野球やサッカーにも親しみながら成長。乗り物好きだったことから将来は「飛行機のパイロットになりたい」と思っていた時期もある。

その平川がレーシングカートと出会ったのは中学に入ってからと、最近のドライバーにしてはかななり遅めだ。若い頃、父がレースをかじっていたこともあり、富士でのF1観戦に行ったことはあったが、その時は特に強い興味を示したわけではなかった。だが、中学で所属した自転車部の練習中、下り坂で激しく転倒したことをきっかけに、より危険が少ないレーシングカートに乗ってみる

ことを父が勧めた。実際に乗り始めると一気にのめり込んだ。富士での記憶が蘇り、F1ドライバーを夢見るようになる。スタートは遅かったが、そこからのステップは非常に早かった。父は平川にダラダラと活動が続けさせるつもりはなく、練習もレースも集中してやる計画を立てた。そのための資金も惜しまずに投下した。

平川自身、もともと才能も持っていた。カートレースを始めた翌年に、早くも全日本ジュニアカート選手権でチャンピオンを獲得、その翌年には全日本カート選手権KF2クラスでシリーズ2位。いずれもわずか1年で結果を出すと、FTRS（フォーミュラトヨタ・レーシングスクール）にも合格する。そして、16歳の時には、FCJ（フォーミュラチャレンジ・ジャパン）にトヨタのスカラシップ生としてデビュー。さらに同年、スーパーFJなどにも参戦。カート時代と同じく、とにかく練習量の確保に努めた。翌年もFCJと並行してF4に参戦。初年度はデータロガーの見方から学ばなければならなかったFCJで、2年目はタイトル争いを演じた。

この翌年、平川はトヨタのスカラシップ生としてFCJに継続参戦する傍ら、自己資金で全日本

F3デビュー。開幕2連勝を含めてシリーズ7勝を挙げ、ルーキーながらチャンピオンタイトルを獲得した。また同年、ハコのクルマの特性を掴むために、ポルシェ・カレラカップ・ジャパンにも参戦し、こちらのタイトルも物にした。スカラシップのプログラムとは別の所で、平川はぐんぐん前進していったのだ。そして、10代のうちに全日本選手権スーパーフォーミュラまで駆け上がってきた。

ところが、ここで平川は足踏みすることになる。F3と比べても、マシンのセットアップが難しいスーパーフォーミュラ。クルマ自体のスピードが高く、さらにレース距離が長いと、最初は体力的にも厳しかった。デビュー年と2年目のチームメイトは、すでにチャンピオン経験があるロイック・デュバル。彼がポールポジションを獲ったりトップ争いを演じる中、特に2年目は「劣等感じゃないですけど、周りが凄くて負けた」という感情を抱いていたという。その翌年には、スーパーGT500クラスにフル参戦。ここで平川は完全にプロのドライバーとなったが、一方でスーパーフォーミュラではなかなか振るわなかった。

その平川に海外での活動の場を与えたのが、ト

ヨタ。「中嶋一貴、小林可梦偉に続くLMP1ドライバーを」ということで白羽の矢が立った。平川は、一旦スーパーフォーミュラから離れ、スーパーGTとヨーロッパ・ル・マン・シリーズに参戦する。1年後には、トヨタがル・マンで走らせる3台目のTS050ハイブリッドのステアリングを握っているはず、だった。だが、事前のセレクションで、平川以上の速さを見せたのは前年のスーパーフォーミュラ・チャンピオンに輝いた国本雄資。平川は「コンマ1秒でも早く走らなければいけないフォーミュラを離れていたことで、スピードに対する執着心が少し薄れていたのかも知れない」と、この時のことを振り返る。もちろん口には出さないが、心は悔しさに震えていたはずだ。

だからこそ昨年、平川はシリーズに戻ってきた。「クルマのセットアップも含めて総合力が高く、「速さを追求するドライバー」になりたい」と。昨年のもてぎ戦で平川が2位の表彰台に立った後、チームの星野一義監督は、「平川が目つきが変わってきた」と評した。勝ちに飢える獣の目に……。そこから1年。平川はようやく渴きを潤す勝利の美酒に酔った。その甘美な味わいを求めて、彼はこれからも走り続ける。

協力: ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

2019 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト (2019年9月24日時点)

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング

1 山本尚貴 Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生／栃木県



DOCOMO DANDELION M15 SF19

昨年の最終戦で劇的逆転勝利により、2013年以来2度目の王者に。今季8年間に在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でも実力を発揮。連覇に向け好位置につけている。



<http://www.naoki-yamamoto.com>

5 福住仁嶺 Nirei FUKUZUMI
1997年1月24日生／徳島県



DOCOMO DANDELION MSY SF19

スーパーフォーミュラには昨年デビューしたが、F1直下のF2とのかけもちだったためフル参戦は今季が初。山本とともにチームを移り、第2戦で初入賞、第3、第5戦でも入賞した。



https://twitter.com/nirei_fukuzumi

KONDO RACING

コンドー レーシング

3 山下健太 Kenta YAMASHITA
1995年8月3日生／千葉県



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に全日本F3王者となり、翌年スーパーフォーミュラに。その年の第4戦もてぎで初のポールポジションを獲得。今季開幕戦で3位表彰台、第2戦、第3戦と連続入賞している。



<http://kentayamashita.jp>

4 国本雄資 Yuji KUNIMOTO
1990年9月12日生／神奈川県



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた、現役では最年少のチャンピオン。今季、8年間に在籍したセルモインギングから移籍し、第2戦でポールポジションを獲得した。



<http://yujikunimoto.com>

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモ スノコ チーム ルマン

7 アーテム・マルケロフ Artem MARKELOV
1994年9月10日生／ロシア



UOMO SUNOCO SF19

レーシングカートから、フォーミュラレースに進み、ドイツF3やGP2、F2で戦ってきた。F2では一昨年シリーズ2位。昨年は、ルノーF1のテストドライバーも務めた。



<http://amarkelov.com>

8 大嶋和也 Kazuya OSHIMA
1987年4月30日生／群馬県



UOMO SUNOCO SF19

2011～12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活へ向けてチームを牽引する。今季は第2戦で3位入賞。さらなる躍進が期待される。



https://twitter.com/oshima_kazuya

TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 パトリシオ・オワード Patricio O'Ward
1999年5月6日／メキシコ



TEAM MUGEN SF19

ダニエル・ティクトゥムに代わり、第4戦から新規参戦。昨年、アメリカのインディライツシリーズでチャンピオンを獲得。今年はインディカーシリーズに参戦している。



<http://www.patriciooward.com>

16 野尻智紀 Tomoki NOJIRI
1989年9月15日生／茨城県



TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。翌年から毎年ポールポジション獲得と速さは折り紙つき。5年間に在籍したチームから今季移籍し、開幕戦と第4戦で4位入賞。



https://twitter.com/tomoki_nojiri

REAL RACING

リアル レーシング

17 塚越広太 Koudai TSUKAKOSHI
1986年11月20日生／栃木県



REAL SF19

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌年から現チームに移籍し戦ってきた。開幕戦に出場したトリスタン・シャルパンティエに代わり、第2戦から復帰した。



<http://www.tsukakoshikoudai.net/>

carrozzeria Team KCMG

カロツツェリア チーム ケーシーエムジー

18 小林可夢偉 Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日生／兵庫県



KCMG Elyse SF19

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目前まで行くと、まだ勝利はないが、今季は第3戦、第5戦で2位入賞。2016年からは世界耐久選手権(WEC)でも活躍している。



<http://www.kamui-kobayashi.com/>

ここに注目!

**第6戦 岡山国際サーキットの見どころ
絞られるタイトル争い。残るのは誰か**

シーズンもいよいよ残り2戦。タイトル獲得候補者が、ここでかなり絞り込まれることとなる。

現在、28ポイントでランキングトップに立つのはニック・キャシディ。開幕戦で優勝しただけでなく、ここまで唯一全戦でポイントを獲得。夏場に入ってから、この2戦で3位表彰台を獲得し、今季も力強さを見せている。これに1ポイント差で追うのは、昨年のチャンピオン山本尚貴。序盤3戦は、SUGOでの優勝を含め連続して表彰台に上っていたが、ここ2戦は連続でノーポイントとなっている。この2人に続き、20ポイントでランキング3位につけているのが、ルーキーのアレックス・パロウ。毎戦のようにポールポジション争いに加わる速さを見せているだけでなく、第4戦富士で初優勝し、タイトル争いに名乗りを上げてきた。パロウと1ポイント差の

4位には小林可夢偉。このところ常に上位を争っているが最高位は2位。まずはタイトル以上に1勝が欲しいところかも知れない。また第2戦で関口雄飛、第5戦で平川亮とインバtl勢も2勝しており、毎戦優勝者が違う大混戦。今回も新たな勝者が生まれる可能性は十分ある。

昨年の岡山大会は関口の優勝で幕を閉じたが、決勝レースは雨。度重なるセーフティカー導入でレース距離がフルディスタンスの75%に達していなかったことから、与えられた選手権ポイントは半分となった。8月に始まった台風シーズンがまだ続いているだけに、そのあたりは予断を許さない。開催時期が昨年よりも3週間ほど遅いが、それも本番の天候に影響するはずだ。

好天となったとしても雨であっても、岡山で重要になってくるのは予選。シリーズ開催サーキットの中でも岡山国際

サーキットはコンパクトなコース。全長が3.703kmと短く、コース幅も広くない。レース中のオーバーテイクが容易とは言えないだけに、グリッドポジションが結果を大きく左右する。

そのグリッドを決めるノックアウト予選は、毎年Q1のトラフィックマネジメントがキモとなっていた。20台が一斉に走るため、どうしても渋滞が発生してしまっていたのだ。そこで今回の予選は、第3戦SUGOと同じく、Q1を2グループに分けて行うことが決定。10台ずつの走行ということになる。ただし、通常20分間行われているQ1の時間は半分になり、ドライバーにとっては一発勝負だ。同じ予選方式が採られたSUGOでは、多くのトヨタエンジンユーザーがQ1で敗退。Q3に残ったのは1台だけと、ホンダエンジン勢が圧倒したが、今回はどのような結果になるのか。

中でも注目はパロウ。富士、もてぎと、ここ2戦は連続でポールポジションを獲得しているが、岡山は全日本F3のデビュー戦でいきなりダブルポールを獲得した相

性のいいサーキット。今回もポールポジション争いに加わってくるはずだ。

ベテラン勢では石浦宏明に注目。今季、ここまでは本来の速さ、強さを見せ切れていないが、岡山は初優勝したサーキットであり、ほぼ毎年のように好成績を挙げている。前戦もてぎあたりから上り調子だけに、そろそろ結果が欲しいところだろう。もちろん、ランキング上位陣にも注目。

初めて岡山を走るSF19のスピードがどれほどのものか、まずは予選でのフルアタックの迫力を感じていただきたい。決勝レースでは、まずスタートで誰が前に出るか。雨であれば昨年のようにオーバーテイクシーンの数々が見られるかも知れない。ドライであれば、スタート時のタイヤチョイスや各チームの戦略が分かれるのは必至。今回は、トップの車両が10周を終了してからでなければ他の車両もピットに入れないという制約があるが、その中で誰が最適な作戦を採るのか。そのあたりを頭に入れて、見守っていただきたい。

Team Pit — ビット割り

3/4			38/39			F3	F3		15/16			19/20			F3	F3	F3	1/5			36/37				F3	F3	7/8			64/65			F3	18				17			F3	F3	F3	50/51			F3	F3	F3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A	C	B	A

◀◀ 第1コーナー

Starting Grid — スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

2	No.	4	No.	6	No.	8	No.	10	No.	12	No.	14	No.	16	No.	18	No.	20	No.
1	No.	3	No.	5	No.	7	No.	9	No.	11	No.	13	No.	15	No.	17	No.	19	No.



: Twitter



: Facebook



: Instagram



は今季スーパーフォーミュラルーキー

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

イトウチュウエネクス チーム インパル

TOYOTA

19 関口雄飛

Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生/東京都

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、いきなりチャンピオンを争う。翌年2勝、昨年も1勝と活躍するがまだタイトルの経験はない。今季も第2戦で勝利している。

<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川 亮

Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生/広島県

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以来3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台を獲得。今季第5戦で待望の初優勝を遂げた。

<https://twitter.com/ryohirakawa>

VANTELIN TEAM TOM'S

バンタリン チーム トムス

TOYOTA

36 中嶋一貴

Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生/愛知県

VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年に続きル・マン24時間レースで2連覇を遂げた。

<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY 1994年8月19日生/ニュージーランド



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は富士で初優勝し、タイトルを争った。今季、コンドレーシングより移籍し、開幕戦で優勝。新チームで再び王座獲得を目指す。

https://twitter.com/nickcassidy_

JMS P.MU/CERUMO・INGING

ジェームス ピーエムコーセルモインギング

TOYOTA

38 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生/東京都

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルで、昨年も第5戦もてぎで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。ここ3戦で連続入賞している。

<https://ameblo.jp/ishiura/>

39 坪井 翔

Sho TSUBOI
1995年5月21日生/埼玉県

RANKING 5 POINTS 12

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

昨年、圧倒的な速さと強さで全日本F3王者に輝き、今季スーパーフォーミュラにデビュー。第4戦で2位表彰台と注目の存在だ。スーパーGTでも今季GT500クラスへ昇格した。

<http://xyz-one.jp/tsuboi/>

B-Max Racing with motopark

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

HONDA

50 ルーカス・アウアー

Lucas AUER 1994年9月11日生/オーストリア



Red Bull SF19

RANKING 11 POINTS 10

ドイツ&ヨーロッパF3を経て、DTM(ドイツツウリングカー選手権)で活動。今季、初参戦し、第3戦で3位に入った。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。

<https://twitter.com/lucasauer1>

51 ハリソン・ニューウェイ

Harrison NEWEY 1998年7月25日生/イギリス



GOLDEX TAIROKU RACING SF19

RANKING — POINTS 0

ジュニアフォーミュラ、F3を経て、昨年はスポーツカーレースに参戦。今季、日本のレースに初参戦を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。

<https://www.harrisonnewey.com>

TCS NAKAJIMA RACING

ティーシーエス・ナカジマレーシング

HONDA

64 アレックス・パロウ

Alex PALOU 1997年4月1日生/スペイン



TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING 3 POINTS 20

2017年に全日本F3で鮮烈デビューし、年末のスーパーフォーミュラルーキーテストでも速さを示す。昨年はユーロF3を戦い、今季スーパーフォーミュラ初参戦。第4戦で初優勝を遂げた。

<https://www.alexpalou.com>

65 牧野任祐

Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生/大阪府

TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING 14 POINTS 6

カート時代に頭角を現し、2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝。今季デビューの開幕戦でポールポジションを獲得した。

<http://team-tadasuke.com/>

千代勝正が語る 岡山国際サーキット

テクニカルコーナーをどう切り抜けるか



岡山は速度が落ちるコーナーがいくつもあって、ダウンフォースに頼り切れないというか、メカニカルグリップが重要なコース。比較的小さいサーキットで、低速コーナーを上手に抜けていくテクニックが必要かなと思います。

1コーナーは中速で、スーパーフォーミュラの場合はブレーキがかなり奥。SF19だと50m看板の少し手前ぐらいからブレーキングに入って、短く止めて、勢いを保ったまま入っていく感じ。かなりダウンフォースが効いた状態からターンインしてって、コーナーの中のスピードも結構高い。セクター1のタイムを決める大事なコーナーですね。ブレーキングしながらステアリングを切るので、バランスの変化も起きやすいです。

2コーナー(ウィリアムズコーナー)は、このコースで1、2を争う高速コーナー。やはりダウンフォースを効かせながらステアリングを切っていきますが、コーナーの頂点のところが逆バンクのように感じます。アクセルを離れた時に、クルマの姿勢が乱れやすいコーナーでもあります。今のSF19は結構アクセルを踏んでいかなければならないんですけど、立ち上がりは壁が近いので、コースアウトすると大きなクラッシュに

繋がる。それだけに勇気を試されるコーナーです。

続くモスSはドライなら普通に全開でも、雨だと水が溜まりやすくて、ある意味一番怖い部分ですね。アトウッドカーブは、バックストレートのスピードを伸ばすために重要で、コーナー立ち上がり上がり坂なので、いかに勢いを止めずに早くアクセルを踏めるか。ドライバーによって差が出て、ラインも外側から立ち上がる人とインベタで立ち上がる人がいます。クルマのセッティングやタイヤの状況によって出口のラインが変わるんです。タイヤが消耗してくると横に横にと流れますし、左リヤの磨耗にも影響が出るコーナーです。

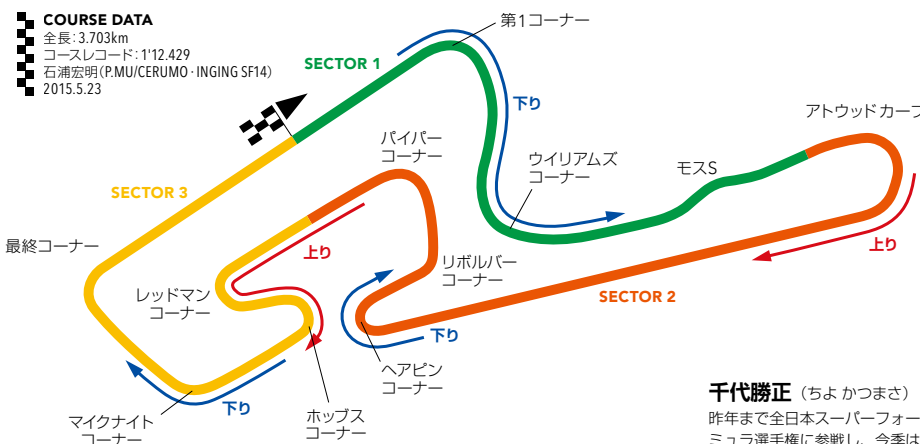
そこからバックストレートを抜けてヘアピン。ここもブレーキはかなり遅らせられます。結構バンクがついていて、それを生かして上手に曲げていける場所ですね。このコースでは大きなオーバーテイクポイントの一つでもあります。

その先は左コーナーが2つ続きますが、1つ目は結構下っていて、クリッピングポイントあたりでフロントのグリップが抜けてアンダーステアが出やすいですね。1つ目と2つ目の間は縁石やショートカットのための回避路の入口があるので、コース幅いっぱい使って立ち上がります。2つ目は、先が上りになるので速度を乗せていかなければならない場所。ここもリヤのグリップやフロントのターンインが重要になってきます。

その先は通称ダブルヘアピンと呼ばれる場所で左・右とタイトコーナーが続き、1つ目と2つ目のつながりが重要で、2つ目の立ち上がりがとにかく大事。ドライビングの差が出やすい場所でもあります。特にライン取りに個性が出やすく、正解がどれかよく分からない。それだけ色々なラインを取れるんですね。天候によっても変わります。ダウンフォースには頼れない場所なので、メカニカルグリップが重要になりますが、2つ目の立ち上がりはクルマのセッティングとタイヤの状態、エンジンパワーの兼ね合いによってホイールスピンしやすい。

だから、タイヤが消耗してくるとこの区間のタイムの落ちが結構大きいです。

最終一ツ手前のマイクナイトコーナーは、SF19だと全開に近いんじゃないですか? コーナーの外で見ると迫力があると思います。2コーナーと同じくそれ以上に速いと思いますし、コース幅も目いっぱい使いますね。最終コーナーは下っていて、コーナー入口で姿勢が乱れやすい場所。出口はストレートにつなげるために、縁石をめいっぱい使ってできるだけ早くアクセルを開けていきます。ここも大事なコーナーですね。



千代勝正 (ちよ かつまさ)

昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでビートルポーターとしても活躍する。

過去3年の結果 (優勝者 | PP)

2018	関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	2017 (Rd. 2)	Race1 A. ロッテラー (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)	関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	2016 (Rd. 5)	Race1 S. バンドーン (ODOMO DANDELION M415 SF14)	中嶋一貴 (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)	2016 (Rd. 2)	石浦宏明 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)	石浦宏明 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)
				Race2 関口雄飛 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)	石浦宏明 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)		Race2 国本雄資 (P.MU/CERUMO・INGING SF14)	野尻智紀 (ODOMO DANDELION M404 SF14)			

SHORT INTERVIEW

KONDO RACING監督

近藤真彦

ライバルがいるから、チームも成長してこられた

Q：今年はチーム設立から20年目です。

「ファンの方たちのおかげです。また、応援してくれるスポンサーをはじめメーカーやエンジン、タイヤサプライヤー、そしてなによりもライバルチームがあってこそ。一歩前に出たと思っててもまた先行するライバルがいるから、KONDOレーシングも成長してこられた。でも伝統あるチームから見たらまだまだ。ただ、成績だけは少し脅かすほどの力はある。ついてきたのかな。とはいえ、常に安定して強いチームになるには相当な努力が必要です」

Q：監督業を通じて、自身が得たことや学んだものは何ですか？

「ドライバーのときは片方で歌手、もう片方がレーシングドライバーという“二足のわらじ”状態。でも監督業に専念後は、社員とその家族を抱える大所帯の経営者になりました。今のところレース界でステップ・バイ・ステップを重ね、大失敗はしていません。また、タレントとしての立場を保っていく責任もある。

だから失敗はできないんです。僕は常にそういう気持ちでチャレンジを続けてきました。30歳を過ぎてチームを起こし、レースを通じて関係者と対等に話をする経験を重ねること、社会人として学んだこともたくさんあります。また、いい先輩方にも恵まれることができました」

Q：チームオーナーとして活動が続ける中、大切にしてきたことは？

「チームに僕の名前がついていても当然僕ひとりです。やってきたわけじゃない。よくここまでやってこられたと思います。やめようと思ったことは何度もありましたが、なんとかここまで頑張ってきました。チームという会社における一番の柱は社員ですが彼らは負けん気の強い職人。だから常にぶれない姿勢を貫くことを大切にしてきました。僕がぶれると周囲はすぐ気がつくものです。また、僕にはもうひとつの仕事があり、どうしても片手間にチーム運営をやっているのでは、と思われ

こんどう・まさひこ

1964年7月19日生まれ、神奈川県出身。レースデビューは1984年の富士フレッシュマン。以来、F3、GT、F3000の全日本選手権はじめ、ル・マン24時間などに挑戦する。2000年、KONDO RACINGを結成。オーナー、監督、ドライバーとして全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに参戦。翌年から監督業に専念し、2006年からのSUPER GTほか、今年はニュルブルクリンク24時間レースにも参戦。



がちです。これに関しては、もはや反論もしないしどう思ってもらっても構わない。ただ、レース界の人たちにはそう思われなくなかった。ので、しっかりと仕事をしてきましたね」

Q：昨季は念願のチームタイトルを獲得。その影響や変化は？

「片手間のチーム運営だと思わなくなってきてくれたと思います。ただ、出る杭は打たれますね。厳しい場面もたくさんあります。調子に乗らず、ぶれることなく、また常にネジを締め直すという謙虚な気持ちを持っておく必要があります。一方で、チームの雰囲気は

変わりました。ひとりひとりのモチベーションが上がっているのがよくわかります」

Q：シーズン終盤へ向かう中、チームとしての目標は？

「最終戦までチームタイトル争いに関わってほしい。最後まで競うことにこだわりたいですね。僕が思う理想のチームとしての完成度は今の時点で7～8割くらい。さらに進歩を目指し、新しい風をこれからもどんどん取り込みたいと思います。スタッフ同士が刺激を受け、切磋琢磨することでプロ集団としてますます強くなっていくことが目標です」



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……
公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！
<http://superformula.racelive.jp/>



リザルトやコメントを見るなら……
公式サイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！
<http://superformula.net>

リアルタイムな情報収集には……

Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント @super_formula

TOYOTA GAZOO Racing @toyota_gr

HondaモータースポーツLive @hondajp_live

公式ハッシュタグは「#sformula」

記事やダイジェスト動画は……

●**Facebook**

スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

YouTube

YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>



お求めは
公式サイトへ！

SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP

**全日本スーパーフォーミュラ選手権
2018年総集編DVD発売中！**

世界が注目する国内トップフォーミュラ、SF14ラストイヤーとなる激動の1年間を振り返る。2018年シーズンの全7戦をダイジェストで収録。完全保存版！

特典映像：SUPER FORMULA 2018
シーズンPV、SF19 デモラン（佐藤琢磨&中嶋一貴・ランデブー走行）
価格：5,400円（税込）



**全日本スーパーフォーミュラ選手権
第6戦 岡山国際サーキット公式プログラム販売中**

メインゲート、西ゲート、イベント広場総合インフォメーション、コントロールタワー1F OIRC事務所で販売しています。 価格：1,000円（税込）

CLUB F
SUPER FORMULA
OFFICIAL FAN CLUB

**オフィシャルファンクラブ CLUB F
新規会員受付中！**

年間パスの販売や各大会ごとのオリジナルチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定！詳しくは公式サイト(<https://superformula.net/sf2/>)内のファンクラブページをご覧ください

Virtual Series

JAF認定 スーパーフォーミュラ・ヴァーチャルシリーズ 第3回 津南大会
2019年10月6日(日)

KRS
KTEL RACE SERVICE

TV放映／映像配信

BSフジ

BSフジ 決勝レース中継

『2019スーパーフォーミュラ選手権 第6戦岡山国際サーキット』

今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の午後5時～6時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レースの見どころ、ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキチンと視聴者の皆様にご覧いただきます。実況はフジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ野崎昌一が担当。解説にはレーシングドライバーの土屋武士があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正がピットレポーターを務めます。

○放送時間：9月29日（日） 午後5時00分～6時55分

GO ON!

BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

スーパーフォーミュラの情報番組としてホットな話題を提供する「スーパーフォーミュラGO ON!」。今年は、国内外から多くの若手ルーキーなど注目ドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。番組の進行役は本田朋子アナ、ナレーションは乃木坂46の樋口日奈が担当します。

○放送時間：第7回 10月11日（金）夜 11時00分～11時55分
10月20日（日）深夜 1時10分～ 2時05分（再放送）

J SPORTS『スーパーフォーミュラ2019』

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェストも放送します。



○放送時間：9月28日（土） 午後2時15分～ J SPORTS 3
9月29日（日） 午後2時30分～ J SPORTS 1

GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信予定。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

GYAO!

TIME SCHEDULE タイムスケジュール

RACE	レース
9月28日(土)	
8:00- 8:20	N-ONE 予選
8:35- 9:05	F3 予選
9:20-10:20	SUPER FORMULA フリー走行
10:35-10:55	TCRJ サタデーシリーズ 予選
11:05-11:50	ピットウォーク
12:15-	N-ONE 決勝 [8Laps]
13:25-	F3 第19戦 決勝 [18Laps]
14:25-14:35	SUPER FORMULA 公式予選 (Q1 A組)
14:45-14:55	SUPER FORMULA 公式予選 (Q1 B組)
15:05-15:12	SUPER FORMULA 公式予選 (Q2)
15:22-15:29	SUPER FORMULA 公式予選 (Q3)
16:00-	TCRJ サタデーシリーズ 決勝 [23min+1Lap]
16:40-17:10	パーティレースⅢ スポーツ走行
17:20-17:55	キッズピットウォーク

9月29日(日)	
8:00- 8:15	パーティレースⅢ 予選
8:30- 8:50	TCRJ サンデーシリーズ 予選
9:05- 9:35	SUPER FORMULA フリー走行&スタート練習
10:10-	パーティレースⅢ 決勝 [8Laps]
11:20-	F3 第20戦 決勝 [25Laps]
12:20-13:10	ピットウォーク
13:35-	TCRJ サンデーシリーズ 決勝[23min+1Lap]
15:05-	SUPER FORMULA 決勝 [68Laps or 90min]

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

EVENT	イベント
9月28日(土)	
8:45- 9:00	オープニングステージ MC:水村リア、笠原美香
9:00- 9:15	サーキットクイーンステージ 出演:岡山国際サーキットサーキットクイーン
11:15-11:30	SF予選直前トーク 出演:千代勝正 MC:水村リア、笠原美香
12:25-12:45	SFドライバートーク 出演:ニック・キャッシュ選手、アレックス・バロウ選手 MC:水村リア、笠原美香
13:30-14:00	レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:笠原美香
17:00-17:15	SFビギナーストーク 出演:YOKOHAMA promotional models MC:水村リア、笠原美香
17:20-17:40	テクノロジーラボラトリー 出演:両角岳彦、浅見理美、スペシャルゲスト MC:笠原美香

9月29日(日)	
8:15- 8:30	オープニングステージ MC:水村リア、笠原美香
8:45- 9:00	サーキットクイーンステージ 出演:岡山国際サーキットサーキットクイーン
10:00-10:30	レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:笠原美香
11:00-11:15	SF決勝直前トーク 出演:土屋武士 MC:水村リア、笠原美香
11:45-12:00	SFビギナーストーク 出演:YOKOHAMA promotional models & スペシャルゲスト MC:水村リア、笠原美香
12:05-12:20	SFポールポジションドライバートーク 出演:ポールポジション獲得ドライバー MC:ピエール北川、水村リア、笠原美香
16:50-17:10	テクノロジーラボラトリー 出演:優勝チームエンジニア、両角岳彦、浅見理美 MC:水村リア、笠原美香
17:15-17:30	SF優勝ドライバートーク 出演:優勝ドライバー MC:ピエール北川、水村リア、笠原美香